

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500015		
法人名	社会福祉法人 清浄会		
事業所名	グループホーム なびき		
所在地	福岡県宮若市下有木1507-1		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果確定日	令和3年12月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和3年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近年コロナ禍の為に外に出かける機会は減少したが、自然豊かな環境の中、畑に苗を植え、収穫を楽しんだり、花壇や、プランターに花を植え手入れしたり、ホーム内では食事の準備や、片付け、洗濯物量みなど生活リハビリを中心に役割を持ち、やりがいを見つけたり、絵画、貼り絵、色塗り、書道、手芸や、音楽クラブでは季節にあった歌や、民謡、カラオケなど楽しませている。毎月の誕生会では、誕生月の方のリクエストに答えて、好きなおやつ作りを行い、みんなで頂いている。新年会、節分、ひな祭り、花見、七夕など毎月合った行事を担当が取り入れ、色々な行事を行い楽しんでいる。外出出来ない部分はホームの園庭で食事をしたり、屋台風にお店を出し、お買い物を楽しんでいる。コロナが落ち着き、地域行事等あれば参加し、社会との関わりを支援していく。医療面でも地域と連携をとり、情報交換を蜜に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食器洗いや食器拭きがやりがいに「家に帰りたい」がなくなったり、調理クラブの面々が、割烹着や三角巾のいでたちで真剣な表情や職員と何やら話しながらの写真に思わず笑みがこぼれるなど、職員が丸となって理念の「みんなでその人らしさを大切に笑顔で寄り添う」ケアを実践している。誤魔化さず丁寧な声かけで入浴に素直に応じてもらえるようになった今年4月に入職した職員は、入居者の「ありがとう」や、「あなたで良かった」が励みになると話している。昨今、骨折で手術を受けるため退居された方の家族から、20年過ごしたホームへの感謝の手紙が届いている。毎月発行している行事予定や報告、個々の近況報告を掲載した通信を遠方の家族には写真を同封で送付し、個人情報に配慮してホームページに掲載しているが、11月末は1年ぶりの運営推進会議や居室での面会を再開予定である。今後も地域、家族、職員、みんなで、地域密着型サービスへの邁進が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名

グループホームなびき1号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域、家族、職員、皆で利用者を支援し、管理者、職員は理念を共有し、実践につなげている。	新人研修や外部評価を通じて、理念の「みんなでその人らしさを大切に笑顔で寄り添う」の共有や実践に努めている。入居者の「ありがとう」や、「あなたで良かった」が励みになると、職員は話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶や、地域の行事にも参加したり、どんど焼きなど地域を回り、正月飾りなど集め、地域の方の無病息災や、豊作、家内安全、子孫繁栄など願って行っている。	法人で自治会に加入し、恒例のどんど焼きは法人の職員駐車場で開催され、近隣からの入居者も多く、参加を楽しみにしている。近隣ホールで開催予定の文化祭は、知名度の高い出演者の招聘で、参加人数が多いことが予測され、今回は参加を見送っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域でおこなわれている認知症勉強会などの、講師として参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し、利用者、家族、包括、警察、地域の方、職員など参加し、行事の報告、事故報告や、対策、取り組みや、利用者様の状況報告を行い、意見など頂きながらサービスに活かしている。現在はコロナ感染予防の為、書類のみの報告。	運営推進会議を中止していた期間は参加メンバーに報告書を送付し、意見をお願いしているが、特段の意見はなかった。会議録は内玄関で公表している。11月末、1年ぶりに開催予定で、市担当者や民生委員、交番、家族などに案内している。	運営推進会議設置目的に鑑み、市担当者に相談し、アドバイスがあった事例について報告し、さらなる透明性のある運営を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議の参加時など協力を頂いている。困難事例など有れば相談、協力いただいている	緊急搬送先の経過観察の判断やホームが医療が必要な方の入居を受ける体制がないなどの説明に、納得が得られない家族の対応に苦慮し、住民票のある市や当市の担当者に相談し、アドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会を中心に身体拘束しない取組を実践し、苑内外の研修に参加し、伝達講習をしたり、コンプライアンスの意識付け等を行っている。玄関はセンサーを設置し、夜間は夕方6時から朝8時迄は施錠し、以外は開錠している。	敷地内の系列施設と合同で、身体拘束適正化委員会を開催し、介護録を全職員に閲覧している。身体拘束の具体的な行為や言葉による拘束、「〇〇して下さい」が上から目線であることを周知している。食器洗いや食器拭きがやりがいになり、「家に帰りたい」がなくなった入居者もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	苑内外の研修に参加し、ミーティングをおこなったり、アンケートを実施し、虐待などが見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内外の研修で学び、家族会などでも説明している。家族が必要な方は支援している。	現在は日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はないが、適宜活用を支援するために、パンフレットなどを整備している。管理者は、家族関係に配慮し制度などの活用を支援する場合は、地域包括支援センターと連携したいと話している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定などの際は、利用者、家族の不安や疑問など、お聞きし、十分な説明を行い、理解、納得をして頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見交換したり、面会時お聞きしたり、玄関に意見箱を設置し、意見相談出来るようしている。	毎月発行の通信に行事予定や報告、担当職員の近況報告を掲載し、遠方の家族には写真を同封している。家族との面会場所の内玄関に行事の折の写真を掲示したり、個人情報に配慮してホームページに掲載し、家族の意見表出を促している。入居者の「21時までテレビを見たい」との意見を、全職員で話し合っている。	通信に運営推進会議の案内や内容を掲載し、更なる意見の表出を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行い、意見や提案を聞く機会があり、反映されている。	定期的な合同ミーティングで業務内容を話し合い、介護度が平均になる入浴介助で介護負担を軽減し、安全な入浴を実施している。月1回の法人会議に管理者2名が出席し、壁紙の張り替えや半数の居室のエアコンの入れ替えが行われ、今月末から家族との面会や外出制限が緩和されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会への参加や、資格習得のアプローチ、フォローを行い各自が向上心が持てるよう環境、条件などの整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関しては、性別、年齢などを理由に採用対象から排除しない。職員がその能力を発揮出来るようしている。	ハローワークやネットで法人としてグループホーム職員を募集し、派遣を含め20代から60代の男女の職員が勤務している。20年以上勤務している職員や再就職した職員もいる。オンライン研修受講を推奨し、職員の良好な連携で働き易い職場となっている。新人研修を終え正規職員として夜勤もしている職員は、仕事が楽しいと笑顔で話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	苑内・外研修に参加し、啓発運動に取り組んでいる。	今年度より運営規定に虐待防止に関する項目を掲げ、法人の虐待防止委員会に職員が参加している。実施した虐待に関するアンケートの集計結果は職員に公表し、啓発活動に取り組んでいる。	法人合同で設置されている接遇委員会で、集計された結果に基づく研修会の企画や実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内外の研修の参加や、リモート研修に参加したりし、働きながらトレーニングを進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GHみやわか勉強会参加や、研修参加などでネットワークを作り、サービスの質の向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談や、利用開始する前に、本人様や家族とコミュニケーションをとり本人様の要望や、安心して頂ける関係に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談や、契約説明時等、家族が困っている事、不安要望などをコミュニケーションをとり、安心して頂ける関係に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始する段階で本人様や家族が必要としている支援を見極め、他のサービスも含め対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らす家族のような存在であり、お互いに癒されたり、励まされている関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人様の状況報告を担当が家族に行い、共に本人様を支えている関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を活用し、馴染みの場所を外に出す予定にいたりしているが、コロナ感染予防の為、出来ていないが、面会は、感染状況に合わせて行っている。	内玄関でお願いしていた家族との面会は、これまで同様の感染防止対策を講じ、事前予約や回数を設けて、今月末から居室での面会が予定されている。恒例の年賀状作りで、大切な人との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志で対話を楽しんだり、一緒にレクリエーションを行ったり、洗濯物も他者のも畳んで下さったり、おしぼりを配ったり、テーブルを拭いて下さったりでお互いにお礼を言ったり支えあう関係作りをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族や、本人様との関係作りは続いており、支援相談は乗り、気軽に立ち寄って頂ける様な関係作りを努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時や、契約時に家族の希望や、本人様の希望、意向をケアプランの中に入れ支援している。困難な場合は日頃の傾聴の中からくみ取り、担当が中心となり行っている。	入居者の意向や生活歴などに応じて、多様なサークル活動への参加や、食事の挨拶やカレンダーの日めくり等の役割作りを支援している。年齢や性が異なる2名の管理者は、入居者や家族と真摯に向き合い協議しながら、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や、面会時など、センター方式を利用し家族に聞いたり、本人様との傾聴の中から導き出している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1か月評価など参考に出来る、出来ないなどの把握や、ミーティングなど行い把握している。又、毎日のバイタルチェックなど参考にコミュニケーションをとり、心身の状態把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月評価を参考にカンファを行い、職員の意見やアイデアなども取り入れ家族や関係者などの意見も参考にケアプランを作成している。	毎月担当職員がモニタリングを実施し、介護計画の見直しにつなげている。足腰が弱りたくない歩行器等で苑内外を散歩する入居者のやりがいや喜びとなっている食器拭きを支援したり、足取りが悪くなった入居者には1、2と声をかけながら歩行を介助している。	介護計画に沿ったチームケアを実践するために、モニタリングしやすい具体的な短期目標やカウントしやすいケア内容の立案や、モニタリング結果をふまえた再アセスメントを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人様が言った言葉などをケア記録に記入し、面会時等に家族から得た情報を担当者、他職員と共有し、プランに反映させたり、日々のケアに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に傾聴し状況に合わせて、併設施設の栄養管理士や、OT、PT、ST等に相談したり、訪問診療、病院などと連携したり、サービスの多機能に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外に向けての活動や、外部の受け入れなどが中々できないが、一人一人がその人らしく暮らし、楽しめる様支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力関係のある病院で、訪問診療も行い、緊急時にも対応して頂けるよう連携を取っている。	月1回、協力医療機関の訪問診療が行われ、緊急時は協力医療機関の訪問看護とも連携している。専門医療機関受診は家族にお願いしているが、関わりたくないとの意向の家族もあり、受診状況の連絡や説明に苦慮する事がある。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時や、臨時の病院受診などの相談やアドバイスを受けれるよう連携を取り支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書を作成し、継続したケアが受けられるように情報交換やソーシャルワーカーさんや訪問看護師さんなどとの関係作りを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調が重度化した場合、Drの話や、現状の説明、今後の事などについて家族と面談を行い十分に話し合い方針などを出し、地域医療とも連携をし、支援している。	看取りに関する指針に沿って、協力医療機関と連携し、家族と話し合いをしている。経口摂取ができるぎりぎりまでホームでの生活を支援し、入院2～3日後に逝去された方もある。昨今、骨折で手術を受けるため退居された方の家族からは、20年過ごしたホームへの感謝の手紙が届いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修で緊急時の対応や、マニュアルを作成し緊急時や、事故発生時に備えている。また、消防署と連携し、緊急時の対応の訓練を行っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火委員を中心に消防署との合同訓練や、苑との合同訓練、グループホーム独自の訓練など行っている。	消防署の指導で、敷地内の系列施設と合同訓練後にホーム独自で訓練を実施している。緊急連絡網で、5～10分でホームに駆けつけられる職員もある。水害時は系列施設の2階に垂直避難予定で、食料品や感染防止関連用品などの備蓄台帳や持ち出し書面を整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止委員会を中心に、言葉使いや、声掛けなど一人一人の人格を尊重しながら行っている。	管理者は、入居者の耳に入ることを配慮し、居間でプライバシーや排泄に関するなどを職員間で伝達しないように指導している。排泄支援が尊厳の保持と関わることを親族で経験したと話す職員は、頻回な尿意の訴えにも穏やかな対応を実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者が自己決定出来る環境づくりをしている。手伝い、入浴、軽作業など本人様の希望も踏まえながらプランに入れている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴など気が進まない時は 時間をずらしたり、塗り絵なども何点かお見せしどれがいかなど聞いてから行うなど色々な場面で自己決定出来る環境づくりをしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の洋服を選んだり、敬老会などで着る洋服を選んだり、家族が持って来たりしている。また、敬老会や、母の日などではお化粧をしたり、マニキュアをしたりとても喜ばれている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなども十分見た目を気を付け、ミキサーの方も一度ミキサーにかけると形よく整えたりしている。利用者が下膳してくれたり、食器拭きをしてくれたり、おしぼりを巻いてくれたりして下さる。	法人厨房から昼や夜の惣菜が届き、ご飯はホームで炊いている。調査日は入居者希望のお楽しみ献立の手作りコロケとちりめん入りのご飯であった。視覚障害の入居者には、献立を説明しながら、食事介助をするなど、食を楽しめるように支援している。調理クラブの面々が、割烹着や三角巾のいでたちの真剣な表情や職員と何やら話しながらの写真に思わず笑みがこぼれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスの良いメニューで、水分摂取は記録しており、摂取しにくい方は、ゼリーにしたり、食事の形態もミキサー、刻み、トロミなど必要な方に応じて行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、声掛けや、見守り、介助の必要な方など本人様に応じたケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、昼夜声掛けや、確認をさせて頂いている。	排泄が自立している入居者もあるが、日中は声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。取り付けた鈴の音で訪室し夜間のポータブルトイレを介助したり、パットを流す入居者にはタイミングを見計らって声かけしている。頻回な尿意の訴えにも、その都度トイレに誘導している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、食事、運動などの声掛けを行う。個人では、Drと相談しながら便秘薬などで調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その方に合わせた入浴を行っている。又、便失禁や、外作業、体調不良など、その方の状態などでは、シャワー浴を行ったり、清拭足湯、ドライシャンプーなど行っている。	週2~3回を目途に入浴を支援している。個別に支援しているが、同性介助の希望に配慮している。入浴を億劫がる入居者には(乾燥肌用の)薬つけましょうと誘ったりしているが、誤魔化さず丁寧な声かけで素直に応じてもらえるようになっていく。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に応じて休息したり、眠れない時は、職員とコミュニケーションを取ったり、昼間の散歩や、日光浴など行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬は薬情報にまとめており、目的、副作用、用法、用量など理解し、服薬の支援と症状の変化など確認に努めている。変更などあれば、連絡帳などに記入し、情報を共有している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを中心に役割を持ち、やりがいや、喜びの生活が出来るよう支援している。手工芸や、絵画、貼り絵、風船バレー、カラオケ、おやつ作り、畑の収穫や、花植えなど楽しまれている。誕生会や、季節の行事など楽しくされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外に向けての活動や、外部の受け入れなどが中々できないが、希望者とは散歩に出かけたり、天気の良い日は玄関前で日光浴など行っている。	桜やイチヨウが植えられたホーム敷地内や周辺を四季折々の風景を楽しみながら散歩したり、ホーム前の畑はトマトやサツマイモ、白菜などが栽培され、園芸クラブの活躍の場となっている。今月末から家族との外出ができるようになり、心待ちにしている入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在買い物にはコロナで行けていないが、外出、買い物など行けるようになったら、個人で支払いなど行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけた、かかって来たりした際は取り次ぎ話して頂く。また、年賀状や、暑中お見舞いなどを書いて頂き、ご家族がとても喜ばれている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間などは温度調節を行ったり天窓の明り取りや、逆に夏場は遮光カーテンを天上にかけたり、玄関など暖簾をかけたり、穏やかに生活出来るようにしている。また、壁には季節に合った飾り物などを利用者と一緒に作成し飾っている。	家族との面会場所になっている内玄関から其々のユニットの入口が設けられ、コロナ禍の閉塞感を緩和しようと、ユニット間の間切りを取った居間は、天窓からの陽光が射し込み、開放感に溢れている。厨房の前にはテーブルや椅子、テレビ、空気清浄器や加湿器が設置され、入居者はそれぞれの場所で寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置など気の合った方と一緒に出来るよう配置したり、居室でゆっくり対話を楽しんだりされる。又、一人でゆっくり新聞を読まれたりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活習慣に合わせた居室の空間になるよう家で使用していた物を持参したり、畳を敷いて本人様が住みやすい環境作りをしている。	筆筒が持ち込まれた居室もあるが、どの居室も備え付けのベットやクローゼットは整理整頓され、今年は壁紙の張り替えもあり、より居心地の良い居室となっている。居室やトイレの場所が分からない入居者もあり、入り口に大きく氏名を記載したブルーの画用紙を貼り付け、居室前のトイレは大きくトイレと記載している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを活かして食器拭きや、テーブル拭き、日めくりなど出来ることはして頂き、そばで見守り、トイレや、居室など分からない人には大きく貼り出して、自立出来るよう支援している。		